樋爪館
比爪館
肥爪館
火爪館

ひづめだて

2014.10.22
第40号
赤石地区
ひづめ館懇話会

事務局 〒028-3309紫波町日詰駅前1-10-2赤石公民館内 tel 019-676-3999　会長 高橋敏明 tel 090-3125-3776

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレットより —

奥州藤原氏とは (1)

奥州藤原氏は、12世紀代、東北地方に勢力を有していた豪族的武士団です。奥州藤原氏は、「秀郷流藤原氏」で、平泉初代の「清衡」の父［経清」は、「秀郷」から数えて6代目です。「秀郷流藤原氏」は中央の藤原氏に連なる家系です。そして、「清衡」は11世紀の安倍氏、清原氏の家譜も引いています。

清衡の母は、安倍頼時の娘であり、前九年合戦(1051～1062年)で安倍氏が滅亡後、清衡氏に娶らされ、清衡も連れ子として、清原姓となります。その後、後三年合戦(1083～1087) が勃発し、清原氏の兄弟の真衡、家衡、清衡が三つ巴となって闘います。 その結果、清衡が勝ち残り、清原氏の嫡流が有していた陸奥、出羽の広範囲の権力を手中にことになります。

≪≪≪　11～12月行事予定のお知らせ　≫≫≫

11 月30日 （日曜日）	第13回定期講演会	時刻　午後１時３０分から午後３時３０分まで （受付け午後１時から） 会場　紫波町赤石公民館 講師　考古学研究者 八木光則 氏 演題　比爪館とその後の斯波 参加料　200円（会員外500円）当日受付け 参加申込み　11月20日までに、FAX/電話で 019-676-3999 赤石公民館 へ
12 月17日 （水曜日）	第57回月例懇話会	午後７時から午後９時まで　赤石公民館 発表者 ： 石 幡　　信 テーマ ： 秀衡街道（平和街道）を巡って 発表者 ： テーマ ：

楽しかった羽柴直人先生と行く旅　思い出のスナップ集

浪岡城跡で記念撮影

・中世の館で三段なでかわらけの説明を受けました。

矢立廃寺跡で現地研修

夜も羽柴さんを囲んで大いに盛り上がりました。

【第９・10次発掘調査(7)】 紫波町文化財調査報告書第24集 比爪館 第9・10次発掘調査報告書＜紫波町教育委員会(平成4年3月30日発行)＞から

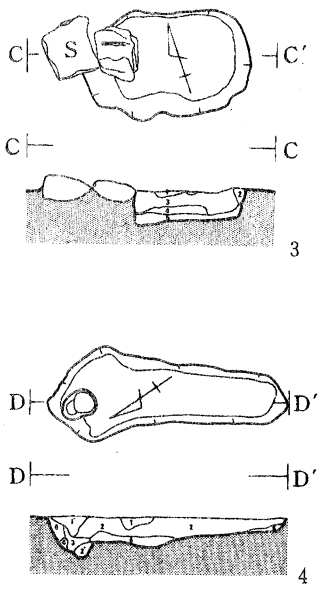
焼土遺構は下表のとおり10基検出されました。うち３基は、土師器・赤焼が多数出土となっていますが、報告書の実測図は下記８点のみです。なお、「No.３とNo.４の焼土遺構はかわらけを焼成した窯の可能性もある。」としている点が注目されます。

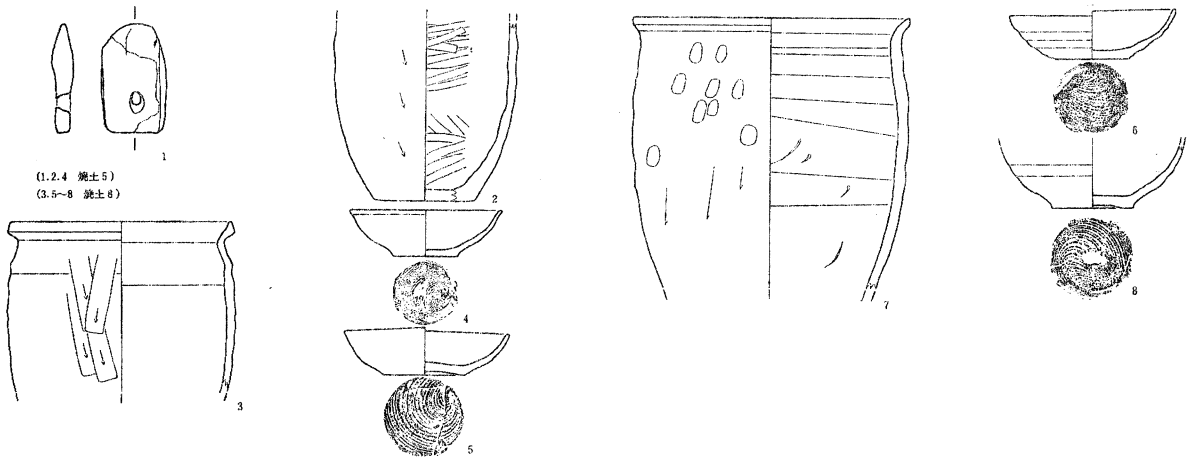
5　焼土

Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区南東寄りを中心として、10基の焼土遺構が検出された。No.３とNo.４は12世紀代の遺構と思われる。どちらも10世紀の竪穴住居跡を切っており、出土遺物にその流れ込みと思われるものが多いが、出土の状況からはかわらけをともなう遺構である。No.３の強く焼け上がった壁や、No.４から多く出土した焼けた小粘土塊などから考えて、かわらけを焼成するための窯であった可能性もある。（174頁/一部抜粋）

第３表　焼土遺構計測値一覧（第119図～第121図・写真75・76）

No.	グリッド (RX・RY)	規模(cm) 開口部径	規模(cm) 深	形態堆積状況	長軸方向	土師器・赤焼：かわらけ
1	+28・−08	175×110	23	攪乱により詳細不明		多量：１点
2	+16・−08	104×72	18	長円形・焼土は円形に堆積	N−15°−E	出土遺物なし
3	+12・−04	134×90	31	隅丸長方形に焼けた壁が立つ	N−77°−W	２：１
4	+16・−24	193×49	32	埋戻しか、投げ込みの焼土多い	N−38°−E	２点：５点 小粘土塊７点
5	+20・−28	118以上×73	19	南半はカマドの堆積に似るSE−115に切られる	N−05°−E	多量：１点
6	+04・−24	124×44	13	長円形	N−74°−E	不明土器細片３点
7	+12・−08	100×90	25	円形	N−88°−E	６点：２点
8	+32・−08	114×86	31	倒立の甕の周辺で火を焚いてる	N−30°−W	多量：０ 土師器甕倒立
9	+24・−04	120×86	17	焼土投げ込み	N−16°−E	少量：０
10	+04・−24	124×75	5	焼土投げ込みの浅い土坑	N−03°−W	出土遺物なし





第121図　焼土遺構出土遺物